

明日に向かって

ともに創る

⑦⑥

大船渡市長 戸田 公明

大船渡港がI・L・Cの物流拠点に位置付けられました

大船渡市は2015年、東北I・L・C推進協議会に加入以来、北上山地へのI・L・C誘致・実現のため、関係団体とともに多様な取り組みを進めてまいりました。例えば、市役所の登り坂に「I・L・C国際リニアコライダーを東北に」横断幕の掲示、奥州市・一関市などで開催される関連行事への参加、大船渡市内におけるI・L・C関連講演会の開催、大船渡港から建設地候補地までの道路でのI・L・C機器運搬用コンテナの通行可能調査、大船渡港利活用についての岩手県との連携、平成30年度一般会計予算へのI・L・Cに関連したまちづくりビジョンと大船渡港の利活用プラン策定費の計上、などであります。

また、去る5月10日仙台市内で開催された平成30年度東北I・L・C推進協議会総会において、それまでの盛岡市・奥州市・一関市・気仙沼市に加え、大船渡市も参与として承認いただきました。これは今までの取り組みの成果であり、本市にとりましては、誠に有難いことでもあります。

素粒子物理学の欧州の国際的組織では、来年から新たな5カ年計画が始まります。日本政府が誘致を決定すれば、I・L・Cがその5カ年計画に位置付けられ、国際的に大きく動き出すこととなります。

従って、日本政府による誘致に係る意思表示の時期は、本年が山場であるとされています。

I・L・Cが実現いたしますと、我々の社会に大きな変化をもたらします。

・素粒子物理学の最先端の研究課題（ヒッグス粒子・宇宙の暗黒物質・暗黒エネルギーなどの解明）に取り組

むことにより科学の発展に大きく寄与

・最先端の研究課題に取り組むハイテク機器類の製造技術向上による多様な分野への大波及

・海外から多くの研究者・家族が来訪・滞在することによる多様な国際交流・国際的な知名度向上・観光振興ひいては地域振興

さらには大船渡に関して追記すれば

・建設期における国内外から海上輸送されるI・L・C関連機器の陸揚げなど、物流拠点としての大船渡港の活用

地元建設業界における建設参加の機会創出

・大船渡から車で約1時間のところに研究施設が建設されることから、意欲ある若者にとっては、研究者・技術者・スタッフとしての働く場

など波及効果には実に多大なものがあります。

是非とも、政府によるI・L・Cの誘致決断に向け、市としても関連諸団体と連携して取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成30年度明治大学連携事業 「地域づくり講演会」を開催します

少子高齢化や人口減少が進行する中で、将来的にも持続する地域にしていくためには、その地に住んでいる皆さんが自ら行う「地域づくり」が大切となってきます。

本講演会では、明治大学専任教授で農山村をはじめとする地域再生に精通され、地域づくりに係る国のさまざまな役職も歴任されている小田切徳美教授を講師にお招きし、都市部から地方への「田園回帰」や関係人口の形成などの新しい動きについて、全国各地で生まれている地域住民主体の「地域づくり」の事例を交えながらご講演いただきます。

▷日時＝6月24日(日)午前10時～正午(午前9時30分開場)

▷会場＝リアスホールマルチスペース

▷主催＝大船渡市

▷講師

小田切徳美さん(明治大学農学部専任教授)

▷参加料＝無料

▷申込方法＝電話またはファクスで①参加団体名②電話番号③参加者氏名をご連絡ください。

※個人の場合、①は不要です。

▷申込先/問い合わせ先

市民協働準備室(☎内線216/☎②④477)

